

ふれあい 雪谷

平成19年
さくら号



(石川台 渋谷 武次さんの作品)

母校の思い出 28

わたしの10代

戦後2年目の22年3月、雪谷高等女学校と併設されて、区立第九中学校は誕生した。

わたしは翌23年に入学した。が、入学したのは久原小学校の一室であった。この小学校は戦災で池雪小学校が焼け一時通学し、2度目と縁が深い。そして正式に雪谷中学校と改名したのは25年9月で、わたしの2年生の時であった。正に激動の中学時代といえる。

校庭の整備なども体育の時間の「校庭の石拾い」など苦難の草創期であった。第一期の卒業生は女子のみで、第二期生のわたしの期から共学の生徒となった。このような状況下の学校生活、夢中で「あっ」という間の中学時代であった。

衣食住は極端に欠乏して弁当も満足に持って来られる人は少なく、芋や豆などもめずらしくなかった。

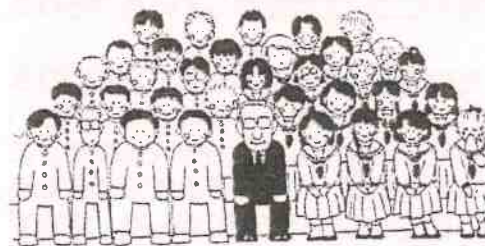
また教育への関心も高くなく、わたしたち4クラスの中、2クラスは就職組であった。わたしも就職組で卒業後すぐに社会へ飛び込んだが、そんなに抵抗感もなかった。高校への進学50%の時代だった。クラス名は藤・蘭・萩・菊と洒落ていた。「俺たち就職組は雑草だからよ…」とクラス会で会うとよく笑っていたが、その力強さ、たくましさ強く感じた。

先生方は戦争から新しい時代へ突入し、意識変革の中で強く伸ばそうと真剣であった。わたしも1年後夜学に身をおき、8年間電灯の下に本を開くことになる。

わたしの4年後に雪中の卒業となる利根川進先生がノーベル賞に輝いたことは、何かこの時代の若者の不屈精神を感じるのである。

雪中の横を流れる吾川は
両岸が土手を広くし、桜の
樹も春はすばらしい光景を
呈して最高の環境にあった。

(南雪谷 飯田 七造)



【編集後記】

暖冬、そして春二番という風が吹く、異常な気象が続いています。健康に気をつけましょう。当委員会では、情報紙の内容がマンネリ化しているのではないかと反省しております。多くの人に、喜んで読んでもらえるような内容にしたいと考えております。皆さんから、こういうようなものはどうか、というアイディアをお寄せ下さい。

(希望 米川 貴)

【発行】 わがまち大田雪谷地区推進委員会
【編集先】 ふれあい雪谷編集委員会
【連絡先】 雪谷特別出張所
大田区東雪谷四一三一二三
電話 三三二九一五一一七
【発行日】 平成十九年四月一日
通巻第六十六号

ホームページ

http://koho/nishi_news/yukigaya/index.html

サークル紹介 35 太極拳「養生塾」

私達の楊明時太極拳は、洗足区民センターの集会所を借りて、毎月第二・第四木曜日の午前中を交流の場としております。

近隣の中高年の男女二十名ほどが参加して練習に励んでいます。長年続けている方から初心者の方まで、一緒に師範の岩崎先生に指導していただき、和気あいあいと活動しています。

ゆっくりとした動きで心身を鍛える氣功太極拳は、中国の伝統的な健康法です。手足や胴体など全身を前後左右上下に大きく動かす有酸素運動で、しかも中腰状態で動かすので、運動量はきわめて多く、また血行や新陳代謝が活発になり、一時間半の練習でも汗が出てくるほどです。上達してくると自然と腹式呼吸が身に付いて、風邪をひかなくなったり、血圧が安定したり、五十肩が治ったという声も耳にします。



入会希望の方は岩崎千晶先生
電話・三七二六〇六〇〇八まで
ご連絡いただければ幸いです。

(池の台 山本美智子)

私の健康法 27

八十二歳を一心元気に過ごしております。改めて「私の健康法」と考えてみますと、お友達に誘われて行きはじめた週一回の太極拳でしょうか。ほとんど休む事もなく九年程になりました。

先生のもとと会員の方々と一時間程呼吸法と共にゆっくりと体を動かします。無理なくいい運動になっていると思います。

そのあとお友達と昼食をとりながら、情報交換やおしゃべりをしますが、食べ物や健康についての話になり、教えられる事の多い楽しいひとときです。

また若いお友達と歩く会を作って五、六年になりますが、都内や

近県を地図や本をたよりに歩いております。草花や樹々その他いろいろの事にくわしい方々と歩くことはいい勉強になり、楽しくもありよい健康法になっている事と感謝しております。この様な日々が続けていかれますことを願いながら、私なりに健康に気を配って毎日を過ごしております。

(東雪 T・E)



「おしえ」

暖冬が過ぎて春。冬は、昔ほど怖くなくなった。しかし冬を恐れる国が、日本の近くにある。私の知人が過日、こんな話をしてくれた。

日本海の向こう、ロシア極東ウラジオストク市は、日本に一番近いヨーロッパである。文化史家の彼は、ときどきこの町を訪れている。何年か前のこと、季節は晩秋だったそうだ。研究パートナーの国立大学の女性の先生が、「明日の日曜日、ダーチャ（別荘）に遊びにきませんか」と誘ってくれた。早朝、漁業会社の副社長であるご主人の運転で、宿舎まで迎えにきてくれた。助手席に彼女が、後部座席には、一家の友達で市役所に勤める男性、中学生の一人息子、そして知人が座を占め、木々が美しく色づいた街道を走ること約1時間、野原の一軒家に到着した。

別荘と言っても、家族総出の手造り。トイレも外で、水も運び込んだもの。それでも市民は息ぬきに、日曜日には足を運ぶんだな、と思った。別荘というより、家庭菜園に近いのだそうだ。食料事情に問題のあるロシアでは、自給自足が当たり前という。到着早々、ご主人はロシア名物のペチカ（暖炉）の総仕上げに着手。奥さんは昼食の準備を始め、一家の友達と息子、それに知人は、庭一面に耕された農園にまだ残っている秋野菜を収穫し始めた。今年最後の畑仕事だという。慣れない仕事に腰を痛めたところ、ご主人が出てきて、息子に、漁業用の網を手渡した。穴が開いて廃棄処分になったものを、会社のゴミ捨て場で拾ってきたらしい。翌年の春まで土が凍らないよう、土の上にビニールシートを被せ、その上に、さらに魚網を被せて重石を載せるのである。少年は黙って、畑の隅から作業に取り掛かった。

やがて家の中から奥さんの「お屋ごはんデスヨー」という声が。待ってました！と知人はようやく火がともされたペチカに冷えた手をかざしていると、食卓に温かいボルシチが運ばれてきた。さーて全員がそろっていただきますの時、“事件”が起きた。パパに命じられた仕事を、息子はまだ完遂していなかった。それを知って家長は烈火のごとく怒った。そして息子の襟首を握って、ドアの外に放り出したのである。

窓外でひとしきり泣いていた彼だったが、やがて全部仕上げ、戻ってきて食事にあついたらときには、大人たちは食後のウオトカで出来上がっていたのである。

厳寒の季節を冬将軍と恐れるロシアでは、子供といえど敵を迎え撃つ貴重な戦力である。甘やかしは一家の全滅に繋がる。まさに「家族あげての総力戦」なのだ。一と、そんなエピソードを語り終えた知人は、「これこそ教育の原点だな」と呟いた。現今、教育論議がかまびすしい。そんな議論の一助にいただければ幸いである。

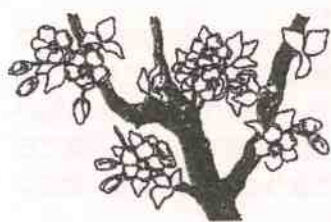
（石川台 近藤 忠夫）



柿の木はどこにいったの

昨年の初秋から、町内パトロールに参加しております。自宅と最寄の駅までの道しか知らなかった私が町内の路地裏までも歩くようになり、いろいろと新しい発見をし、パトロールを楽しんでいます。

また、町内を回っていると、家々の庭やベランダにきれいな花々が咲き乱れて、パトロールをしている私たちにも安らぎを与えてくれます。秋はまた、実りの時です。木々に果実を付けた風景も見られます。私たちの町内では、なぜか、みかんや夏みかん等の柑橘系の果物が多く見られます。あれは食べることができるのでしょうか。私の小さい時は、手軽においしく食べられる果物として、庭に柿の木を植えている家が多かったのを覚えていました。自分の家の庭にもあり、柿が実り、熟してくると、鳥に食べられる前に取りいれておりました。今では、町内を巡回していても、柿の木をほとんど見かけません。



柿の木はどこへいったのでしょうか。果実も、食べるためでなく、観賞用になってきたのでしょうか。みなさんのご町内ではどうでしょうか。柿の木はありますか。

（笹丸 中島 務）

美しい環境づくり 23

一昨年に大田区で制定された歩行喫煙禁止の条例によって、健康増進ばかりでなく、道路や空気といった環境美化面でも改善が進むことを期待しています。

煙草を吸われる方の気持ちについては理解しているつもりです。

生家は煙草屋で、子どもの頃は店の手伝いをよくしておりました。店先に並べた煙草が少なくなると、倉庫に行って新しい煙草を持ってくるのが幼い私の仕事でした。当時人気のあった「いこい」「しんせい」等の煙草は、ペラペラの紙でできた箱に詰め込まれ、外側をろう紙でくるまれておりました。店先でつるつるしたろう紙を開けると、辺りに煙草の濃厚な香りがいっぱいに広がります。息を強く吸うと頭の芯がクラッとするような気分になり、日常のわい雑さから切り離されたちょっとおしゃれな気分にもなりました。

煙草好きの方がそんな煙草の魅力を楽しむ気持ちはよくわかるのですが、公共の場では、これまで幾度となく煙草に関する残念な光景を目にしました。雑踏の中、火のついた煙草を振り回すようにして歩く人、道路の吸殻、バス停の脇でもうもうと煙を上げる公共の灰皿、大量の吸殻を道路に捨てて走り去る車を見たこともあります。

環境や空気を汚すのは煙草だけではなく、原因の一端に、より多くの関心が向けられることにより、住みやすい環境づくりがさらに進むことを願っています。

（上池上 T・H）

自治会リレー随筆

原子力発電所・見学研修会

自治会初めての試みとして、東京電力（株）のご好意による、新潟県柏崎・刈羽・原子力発電所の見学研修会に、1泊旅行を兼ねて企画致しましたところ、会員の皆様非常に原子力発電については関心が高く、40数名の参加の申し込みがありました。かねてからの原子力発電所における不祥事に対して、いかに原子力が安全でかつ、大切かを勉強したいと思っておりました。

当日は大変よい天気恵まれバスにて、関越自動車道・北陸自動車道でドライブです。群馬・新潟の山並み、木々、バスの車窓から見る素晴らしい景観に見とれていました。

バスはいよいよ午後柏崎に到着。参加者のほとんどの方が原子力発電の詳しい知識は持ち合わせておりません。本施設の見学の前に、展示ホールで発電施設及び原理のお話。原子炉の中でウランを核分裂させ、その時に発生する熱によって水を蒸気に変え、この蒸気の力でタービンを回転させ発電機にて電気を起こすシステムです。柏崎市と刈羽村にまたがる420万平方メートルの敷地に、原子炉は7基設置され、1ヶ所で原発の発電出力、820万KWとしては世界最大とのこと。その後、広大な敷地の中をバスで色々な施設を見学。そして、安全性・エネルギー問題・自然との共存・地球環境問題等のお話を聞き、電気の大切さを痛切に感じました。

見学後、私たちは夕方新潟の岩室温泉に泊まり、疲れを癒しました。2日目は弥彦神社にお参りして、観光や寺泊での買物を楽しみ、帰路につきました。

（小池 M・Y）



俳句

永き日や 同じかたちの 家並ぶ

（小池 江畑）

幼子に 大空狭き 石鹼玉

しゃぼんだま
（小池 池西）

短歌

沈丁花 香りと共に 春を告げ

青空に染みる 白木蓮の花

ラジオより 季節の便り 届けよと

雪の知らせと 菜の花だより

（小池 高橋 久子）